

令和7年第1回庄原市議会定例会

一般質問通告者 及び 質問事項

3月3日・3月4日

質問順位

【代表質問】

1. 地域政党きすな庄原議員団 (徳 永 泰 臣)
2. 結 (堀 井 秀 昭)
3. 日本共産党 (谷 口 隆 明)
4. 市民の会 (宇江田 豊 彦)

【個人質問】

1. 坪 田 朋 人
2. 前 田 智 永
3. 赤 木 忠 徳

庄 原 市 議 会

令和7年3月定例会 一般質問

【 代表質問 】

順位	会派名 (質問議員)	質 問 項 目	ページ
1	地域政党きずな 庄原議員団 (徳永 泰臣)	子どもたちと多世代の集いの場整備事業について	1
		県立広島大学との連携について	3
		有害鳥獣対策について	4
2	結 (堀井 秀昭)	3期12年取り組まれた「庄原いちばんづくり」の成果と今後に期待すること	5
3	日本共産党 (谷口 隆明)	2025年度予算と今後の財政運営について	7
		緊急の生活支援を	8
4	市民の会 (宇江田 豊彦)	庄原市人権教育・啓発推進プランについて	9

【 個人質問 】

順位	質問議員	質 問 項 目	ページ
1	坪田 朋人	農業用水路の維持管理と農業振興について	10
		人口減少対策について	11
2	前田 智永	災害に強いまちづくりについて	12
3	赤木 忠徳	地域ブランディングで地方再生を	13
		幸せを感じ安心して過ごせる庄原市に	14
		大型事業は20年50年先を見据えた施策展開を	15

一般質問日程 3月3日(月) 代表質問(1～4)

3月4日(火) 個人質問(1～3)

【代表質問】

順位	1	会派名	地域政党きずな 庄原議員団	質問者	徳永 泰臣
項目	質問の小項目及び要旨				答弁を 求める者
1. 子どもたちと 多世代の集いの 場整備事業につ いて	<p>(1)地域政党きずな庄原議員団は、予算編成に対する要望書を提出した。</p> <p>この中で「協同組合庄原ショッピングセンター・ジョイフルnagae」を、子どもたちと多世代の集いの場として位置づけ、ショッピングセンター・ジョイフルの再構築をはかることを提言している。これは、ショッピングセンター・ジョイフル周辺は、ホテル、市民会館、図書館、本屋、子どもクリニック等、市民が集う施設が多数集積している市の中心部だからである。</p> <p>令和6年2月～3月にかけて本市が実施された就学前児童の保護者や小学校の保護者へのアンケート調査によると、「子育てしやすいまちにするためには、どのような支援が必要だと思いますか」の問いに対して、1番多い回答は、「親子でも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」、その他には「親子が安心して集まれる身近な場所を増やしてほしい」という回答もあった。</p> <p>近年の子育て支援施設は、温暖化の影響から屋外ではなく屋内に整備する傾向にあると思う。例えば、府中市の「子育てステーションちゅちゅ」や三次市の「みよし森のポッケ」は屋内施設で、利用も多いと聞く。</p>				市長

【代表質問】

順位	1	会派名	地域政党きずな 庄原議員団	質問者	徳永 泰臣
項目	質問の小項目及び要旨				答弁を 求める者
1. 子どもたちと多世代の集いの場整備事業について	<p>10年～20年先を見据えたコンパクトシティを提案されている中で、ショッピングセンター・ジョイフルを核とした周辺整備が子育て支援を含め、子どもたちと多世代の集いの場として最適であると考えているが見解を伺う。</p> <p>(2)現在計画をされている子どもたちと多世代の集いの場整備事業は、厳しい庄原市の財政状況の中で市民が満足できる事業とは思えない。 一度立ち止まり再考する必要があると考えているが見解を伺う。</p> <p>(3)庄原地域以外への公園整備も、現状分析の中で各地域の特性などを活かした適地の選定を含め、別途検討するとある。 庄原地域以外への公園整備は急務であると考えているが見解を伺う。</p>				市長

【代表質問】

順位	1	会派名	地域政党きずな 庄原議員団	質問者	徳永 泰臣
項目	質問の小項目及び要旨				答弁を 求める者
2. 県立広島大学との連携について	<p>県立広島大学との連携については、これまで会派代表者質問などで「将来にわたり強固な関係を維持していく」との力強い答弁をいただいているが、来年度予算額も今年度と同程度の70万円であり大変残念である。そもそも、強固な関係とは、「互いを大切に思う結びつきや、強い絆、強い繋がりなど」を指す訳であり、私には到底理解できない。</p> <p>庄原市内に在住してくれている600名以上の県立広島大学の学生は定住の可能性が高く、宝ではないであろうか。その学生に本市に残ってもらえるような施策が必要と考える。</p> <p>通学補助、家賃補助、サークル活動支援、アルバイト紹介などの学生応援事業、市内企業へ就職していただくためのインターンシップやマーケティング事業などが必要と考えるが改めて見解を伺う。</p>				市長

【代表質問】

順位	1	会派名	地域政党きずな 庄原議員団	質問者	徳永 泰臣
項目	質問の小項目及び要旨				答弁を 求める者
3. 有害鳥獣対策 について	<p>本市においては過疎化、高齢化が進み、農地や森林の管理が行き届かなくなっている。耕作放棄された農地は荒地となり、イノシシ、野猿が農作物を荒らす被害が拡大し、農家の生産意欲もなくなってきた。</p> <p>野猿については生息域が東城町、西城町、旧庄原地域へと拡大し農作物への被害のほか、子どもや高齢者などへの人的被害も懸念される。</p> <p>長野県大町市は、被害が深刻だった猿の対策を、情報通信技術（ICT）を活用した群れの把握や、農家や住民と協力した対策が成功し、被害額は3分の1に減り、捕獲頭数は10倍以上に増えた。これまでは猿の群れの位置を正確に把握できず、効率的な追い払いや捕獲が難しかった。</p> <p>そこで、衛星利用測位システム（GPS）で常に群れの位置が分かるシステムを導入した。いっどこに出没するかを予測できるようになり、住民から聞き取った出没情報をアプリで共有したりして、効率的な捕獲につなげた。</p> <p>こうした先進事例を参考に、住民を巻き込み対策を進める事が大切と思うが、市としての見解を伺う。</p>				市長

【代表質問】

順位	2	会派名	結	質問者	堀井 秀昭
項目	質問の小項目及び要旨				答弁を 求める者
1. 3期12年取り組まれた「庄原いちばんづくり」の成果と今後を期待すること	<p>会派「結」はこれまで、主には農林業や地域の活性化並びに福祉の向上など市民の要望を十分受け入れる政策の遂行を目的に活動してきた。</p> <p>今回は木山市長の庄原いちばんづくりについて質問する。</p> <p>(1)市長におかれては、昨年12月定例会において3期12年を一つの節目と捉え任務を終えさせていただくと表明された。</p> <p>市長は3期12年にわたり、「やっぱり、庄原がいちばんええよのお」と思える「まちづくり」に取り組んで来られた。</p> <p>私はかつて、市長に庄原いちばんづくりへの思いを尋ねて共感したことがある。</p> <p>私なりに庄原いちばんづくりを振り返ると、「地域産業のいちばん」では、比婆牛ブランドの復活や製材所の誘致、「暮らしの安心のいちばん」では、市民の悲願であった産科医療の再開や子育ての支援の充実、「にぎわいと活力のいちばん」では、日本誕生の女神の発刊や庄原ファンクラブ事業の創設に代表されるように、庄原のこれまでの取り組みに着目され新たな価値を創造し、「庄原で暮らしたい」、「庄原に帰りたい」と思えるまちづくりに取り組まれたと評価している。</p> <p>そこで、3期12年を振り返られ、市長が</p>				市長

【代表質問】

順位	2	会派名	結	質問者	堀井 秀昭
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者	
1. 3期12年取り組まれた「庄原いちばんづくり」の成果と今後期待すること	<p>思われる庄原いちばんづくりの成果について伺う。</p> <p>(2)市長は今期で勇退されるが、庄原市は取り組まれた政策、施策を踏まえ、未来へ進んで行くことになる。</p> <p>庄原市の次代へ、そして未来へ期待されることについて市長の見解を伺う。</p>			市長	

【代表質問】

順位	3	会派名	日本共産党	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者	
1. 2025年度予算 と今後の財政 運営について	<p>(1) 新年度予算では市税の増加を見込み、普通交付税もほぼ現状維持だが、人件費の増加や物価高に歳入財源が追いついていない。</p> <p>そのため、財政調整基金からの繰り入れが昨年の4億7,000万円に続き、新年度は6億5,900万円に上っている。この状態が続くことは由々しき事態である。</p> <p>今後、事業の抜本的な見直しが必要と考えるが、どのような対策を行うお考えか。</p>			市長	
	<p>(2) 2月4日の議員全員協議会で示された2030年度までの財政推計では、普通交付税は横ばい、財政調整基金は10億円まで減少するとしている。</p> <p>これはあくまで現在の財政スキームが続くと仮定したもので、国の地方財政政策、市の事業の進め方その他によっては普通交付税などの財政推計数値が大きく変わると考えるが見解を伺う。</p>				

【代表質問】

順位	3	会派名	日本共産党	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨				答弁を 求める者
2. 緊急の生活支援を	<p>(1) 全世代にわたって深刻な生活苦が広がっている。</p> <p>先の補正予算で、事業者支援や生活者支援を具体化され喜ばれているが、本市として、さらに多くの世帯にいきわたる支援として、学校給食費の軽減又は無償化、福祉灯油や家庭向けの水道料金の減免など可能な範囲で実施すべきではないか。</p> <p>財政負担は増えるが、思い切って不要不急な事業は止めてでも、市民の暮らしを守るのが自治体の役割だと考えるが見解を伺う。</p> <p>(2) 先月、県立大学庄原キャンパスで学生への食料支援に参加したが、20人のアンケートから学生生活の困難を訴えられた。</p> <p>回答では「バス料金の往復500円は厳しいため元の無料に」、「家賃やガソリン代の負担が大変である」、「生理用品を配布して欲しい」、「給付金があれば助かる」等々の意見があった。</p> <p>本市に全国各地から来てくれている学生に何らかの支援はできないのか。</p>				市長

【代表質問】

順位	4	会派名	市民の会	質問者	宇江田 豊彦
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者	
1. 庄原市人権教育・啓発推進プランについて	<p>本市の最高規範である「庄原市まちづくり基本条例」第4条において、人権尊重の原則に沿ってまちづくりを進めることが規定されている。</p> <p>本市におけるすべての政策・施策は一貫して市民一人ひとりの人権の確立をめざしていると認識している。</p> <p>その中でも直接的な人権確立をめざし、2007（平成19）年より推進されてきた「庄原市人権教育・啓発推進プラン」について、これまでの取り組みを通し、成果と課題、今後のプランの見直し等の展望について伺う。</p>			市長 教育長	

【個人質問】

順位	1	質問者	坪田 朋人	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 農業用水路の維持管理と農業振興について	<p>(1) 農業は本市の基幹産業であり、地域経済や社会基盤を支える重要な役割を担っている。</p> <p>しかし、農業従事者の減少や高齢化により、農地の保全や活用はもとより、農業用水路の維持管理が課題となっている。</p> <p>農業用水路の管理は原則として農業者が行うものであるが、農業者の減少に伴い、維持管理が難しくなっている地域もある。市独自の支援制度もあるが、自己負担率が高く、厳しい経営状況の中で実質的に活用が難しいのではないかと考える。</p> <p>この状況を踏まえ、農業者負担の軽減や支援制度の拡充の必要性について、市の見解を伺う。</p> <hr/> <p>(2) 農業振興については、担い手の確保や農業経営の安定化を図ることが必要と考える。</p> <p>本市の農業振興について、これまでの施策の成果と課題を踏まえ、持続可能な農業を実現するために、次期農業振興計画の策定に向けた方向性について伺う。</p>		市長	

【個人質問】

順位	1	質問者	坪田 朋人
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 人口減少対策 について	<p>本市では、人口減少を抑制し地域活性化を図るために、移住促進施策、子育て支援、そして働く場の確保などが進められている。</p> <p>令和7年度予算においてもこれらの施策に取り組まれており、特に移住者や子育て世代にとっては「働く場の確保」と「生活環境の整備」が重要な要素である。</p> <p>これらをどう総合的に進めていくのかが重要であると考えます。この点について市の現状と課題、今後の方針を伺う。</p> <p>(1) 移住促進施策に関して、これまでの進捗状況や課題について市の認識を伺う。また、今後の方向性について市の見解を伺う。</p> <p>(2) 子育て支援施策について、現在抱えている課題と、特に注力している施策について市の考えを伺う。また、今後どのように充実させていくのか伺う。</p> <p>(3) (1)と(2)を踏まえて、移住・定住を促進するための環境整備に向けた総合的な取り組みとして、本市では医療、福祉、教育、住環境の整備や働く場の確保などをどう進めているのか、市の現状と課題を伺う。また、今後どの分野に特に注力していくのか、市の方針を伺う。</p>		市長

【個人質問】

順位	2	質問者	前田 智永	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 災害に強いまちづくりについて	<p>内閣府の特集、「いまこそ災害に強いまちづくりを」では「災害に強いまちづくりは、国や自治体の行うハードの整備と、住民主体の地域コミュニティのソフトの活動が一体となって初めて災害に強いまちが形成される」、「地域社会と行政がいかに信頼関係を持ち、連携してまちづくりをすすめていくかが非常に重要である」として、情報を発信している。</p> <p>そうした観点から以下の点について伺う。</p> <p>(1)本市で発生した身近な災害記録の保存・整理・伝承が非常に重要な取り組みだと考える。いつでもどこでもどなたでも見ることができる啓発環境が必要と考えるが市長の見解を伺う。</p> <p>(2)防災士を中心とした市民の防災意識向上を目指した取り組みや、有事に機能する避難訓練が必要不可欠であると考えているが、今後の取り組みについて見解を伺う。</p>		市長	

【個人質問】

順位	3	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 地域ブランディングで地方再生を	<p>(1) A Iに庄原市と言えれば何を思い浮かべるか問うたところ、「里山の自然や文化、人々の愛、そして澄んだ空気や清流などの自然環境が豊かである」と示された。今、産業界のみならず、地域のイメージ戦略が重要になり、地域ブランディングを成功させ、活気を取り戻している地域も存在する。</p> <p>地方が抱える課題は、人口減少、少子高齢化、経済停滞など多岐にわたる。</p> <p>都市部への人口流出が進んだ要因の一つは、地方が持つ魅力度の低下と考える。地域ブランディングにより、「ここにしかない魅力」や「特別な経験」が明らかになれば、地域への愛着も増し「より良い地域へと変えていくため、自分にできることをしたい」という市民が行動を起こし、そして、地方再生を内側から進めるためのきっかけになると考える。</p> <p>これまで、地域ブランディングの手法を取り入れて、庄原市内外へのイメージ戦略に取り組まれたことはあるのか。</p> <p>また、今後地域ブランディングの手法を取り入れて、地方再生にチャレンジされる計画があるのか伺う。</p> <p>(2) 教育民生常任委員会で、平成 26(2014)年に合計特殊出生率 2.81 を達成し奇跡の町と呼ばれた岡山県奈義町や、子育てをするなら大村市と評される長崎県大村市の視察を行ったが、庄原市の子育て支援は、他市に劣ることなく、むしろ勝っていると考えます。</p> <p>今こそ、「子育てをするなら庄原市で」と胸を張って宣言すべきと考えますが、見解を伺う。</p>		市長

【個人質問】

順位	3	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
<p>2. 幸せを感じ安心して過ごせる庄原市に</p>	<p>(1)自分にとっての幸せはどんなことなのか考えると、まず、健康であることを思い浮かべる。健康である為には、それを支える医療機関が必要である。</p> <p>しかしながら、無医地区の数は北海道に続いて広島県が2位、しかも庄原市には23地区あり、医療困難地域であることを実感している。</p> <p>これまで、厚生労働省の地域医療構想の先駆けとなるよう庄原日赤、三次中央病院院長を歴任された中西先生を中心に医療連携、医薬品共同購入など様々な体制強化策を打ち出してこられた。</p> <p>そうした中、庄原市立西城市民病院は第3期庄原市立西城市民病院経営強化プラン～市民の皆様が安心して暮らせ 心の支えとなる病院に～を策定された。このプランの周知啓発が必要と考えるが見解を伺う。</p> <p>(2) 庄原市立西城市民病院の重要性は理解されていると思うが、現在の建物は53年経過していて、多くの個所で改修が必要となっている。</p> <p>今、調査段階であると察するが、今の病院機能を削減することなく建て替えされることを望むが見解を伺う。</p>		<p>市長 病院事業 管理者</p>

【個人質問】

順位	3	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
3. 大型事業は20年50年先を見据えた施策展開を	<p>来年度、第3期長期総合計画を策定されるが、総合計画の重要性は、市長が代わられても市の政策の一貫性を示すものであり、市民にとって安心を約束するものである。</p> <p>しかしながら、大型事業は、20年50年先を見据えた計画を策定すべきであると考えているが見解を伺う。</p>		市長